

Nurses' management of a clubhouse model-based self-help group for people with depression

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37213

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 25年 8月 20日

博士論文審査結果報告書

報告番号 _____

学籍番号 1027022006 _____

氏 名 大江 真人 _____

論文審査員

主 査 (職名) 北岡和代 (教授)  印

副 査 (職名) 塚崎恵子 (教授)  印

副 査 (職名) 加藤真由美 (教授)  印

論文題名 Nurses' management of a clubhouse model-based self-help group for people with depression

論文審査結果

【論文内容の要旨】

わが国においては、うつ病者の増加が社会問題化している。このようなうつ病者に対して、グループ活動による支援が行われているが、グループの数も少なく、グループ運営にも課題を抱えている。専門職と当事者との協働による運営が効果的であると言われている。そこで、ミューチュアルアクションリサーチ (MAR) を用いて、クラブハウスモデルを基盤としたうつ病当事者グループ (SHG) を設立・運営し、その変容過程を明らかにすることを本研究の目的とした。SHG に参加したスタッフ (看護師 7 名) とメンバー (うつ病者 9 名) による実践経過を、参加観察と半構造化面接によるデータ収集から分析した。その結果、【局面 1】うつ病者の当事者グループ設立への願いの表明、【局面 2】理想のグループ運営の在り方の検討、【局面 3】具体的なグループ運営方法の決定、【局面 4】クラブハウスモデルを基盤としたグループ運営の固定化、【局面 5】メンバー主体の運営への移行、【局面 6】メンバー主体の活動による課題の明確化という 6 つの局面によるグループの変容過程があることを明らかにした。

この結果から、SHG にクラブハウスモデルを用いる有用性と、体調に合わせた自由な参加を保障することがメンバーの参加継続につながる可能性が示唆された。また、効果的かつ発展的な SHG 運営のためには、うつ病者の特徴を理解している看護師が医療的視点に沿ったサポートを継続的に実践し、うつ病者の不安を軽減していくこと、メンバー同士が語り合える場所としての意義を尊重すること、リーダーの育成やセルフヘルプ能力向上に向けた取り組みを行うことが重要であることが明らかとなった。

【審査結果の要旨】

うつ病者を対象とした当事者グループの効果的な在り方に関しては、研究が発展しておらず、さまざまな課題が残されている。本研究は MAR を適用し、研究者自身が実践者となり、グループを設立・運営し、その変容過程を明らかにした挑戦的な研究であり、学術的に意義があると評価できる。本研究の成果は、うつ病者を対象とした当事者グループの在り方に関する新たな知見であり、今後その活用が期待できる。公開審査では、MAR、SHG の目的、対象、局面 5 等について質疑され、いずれも適切な応答がなされた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士 (保健学) の学位を授与するに値すると評価する。